

## 14. プログラム総括

### 1. 研修総括と暮らしぶり見聞

過去 30 年間、ほぼ毎年海外一人旅をしてきたが、インドは無理だと思い諦めていた。今回、やっと念願かない、よい天気と心地よい気温と意欲のある視察メンバーに恵まれ、期待通りの研修であった。もう少し長く滞在して街中を歩きたかったが、視察内容は非常に充実していた。

堂道特命全権大使のインド情勢における 1 時間に渡る意義深いお話や、日系政府機関・日本商工会関係者との意見交換会などから、インド生活の苦勞がしのべられた。駐在員生活は水の悪さ、停電の多さ、日本の食材の確保の困難さ、娯樂の少なさなどの中で、日々奮闘されておられると共に、商社の若手社員でも、今は海外赴任を望まない人が多くなっていると嘆いておられた。日本の虫よけスプレーなどはインドの蚊に効かないので、インド製の蚊帳の中に寝ているという苦勞話を聞いた。駐在員が困っていることの一つは、日本の多くの地方の特産物である牛肉・魚介類の輸入が困難、個人的にもインドの友人に干物、蒲鉾などを冷蔵冷凍で送るのは困難なことである。法規制（輸入に特殊ライセンスが必要だが、申請しても却下）、空港冷凍施設の未整備、インド人の価値観として冷凍物は新鮮でない等という理由により、今後も魚・牛肉の確保は容易ではないが、地方はもっと食材を売り出すべきと思うので、何かいい方法はないものかと思う。日本ほど食材に恵まれ、多彩な日本料理、多国籍料理が多くてうまい国はないと思う。インドのカレーはうまいが 1 日 2 食では飽きる。インドやその他外国人などの外国人を対象とした日本料理店、中華料理、回転寿司、ステーキ店、ケーキ店も今後進出可能であろうと思った。

デリーなどの旧市街にこれほど豊かな枝葉を広げる大樹が多いとは思わなかった。ほぼ年中熱いので百年以上前から植樹されたものと思われ、道路・歩道に占める緑被率・樹木被覆地率は世界一だろう。国会議事堂近くの街路樹には野生の猿がたくさんおり、街中には野良犬、鳩、リス、小鳥も多い。山羊、牛、水牛も見かけ、現在と過去が共存している。排気ガスで空気は悪いが、野良犬たちには屋台などからの餌がもらえる場所があるし、歩道は広く、大きな木陰は多いし、環境はさほど悪くないのだろう。「グリーン・デリー、クリーン・デリー」と政府は呼びかけているが、クリーン・デリーの方はこれからである。これもカースト制度の影響で、掃除する人は決まっており、地域住民で清掃するとか、ゴミの分別などはしないので、徹底するのは難しいのだろうか。一方で、インドの IT 産業の中心地、バンガロールはここはインドだろうかと思うほどインフラ整備が進んでいた。

### 2. スラムのない社会づくりへ

インドの最大都市ムンバイは国内経済の中心都市であるが、空港周辺から都心部、いたるところにスラム街が見られる。ムンバイ市の資料によると、市面積の 38%、市人口

約 1,400 万人のうち 60%がスラムに住む。スラム街でなくとも、歩道も高架下も駅舎も様々な所が寝る場所として開放されているのだろう。インドの場合、飢死や凍死はほとんどないと思うが、スラムは人間が住むところではないと思う。インドのスラムの特徴は再開発の結果でもあるのだろうが、高層高級マンションやホテル、オフィスビル、商業ビルに隣接してあったり、着飾った女性がスラムの前を歩いていたり、歩道上を家族で占有している光景が広がるが、隣接地区に安全で共存しているということであろうか。日本なら道路不法占用、営業妨害、ゴミ屋敷撤去問題となる所だろう。なぜ共存できるのか不思議である。インドを理解するためには、宗教の教え、歴史、生活文化を理解しないと軽々に論じられないが、これもカースト制度が影響しているのだろうか。いかに経済発展してスラム対策が実施されても、人口が増加する一方で、カースト制度が残存している限り、スラムは減るのだろうかと思う。最下層の人々に対する保護政策として「リザーベーションシステム」「アフーマーティブ・アクション（積極的差別是正措置）」などがある。国会、地方議会の議席の一定比率の留保、高等教育への入学枠や公務員の採用枠などで 25%程度を留保することを保証するものであるが、このカーストに基づく保護措置のさらなる導入をめぐる騒乱も生じている。日本語を学ぶインド人学生との交流会の中で、リザーベーションシステムで進学できたと発表する学生が参加していた。スラム地区ではアメニティ整備（集会事務所や保育園、遊具公園など）が行われたり、再開発により、スラム居住者は無料で高層住宅の新居を手に入れても、仕事とか近隣の関係で生活できず、再び元のスラムへ戻ってしまう人も多く、スラム対策の効果は定着していない。（高層アパートの廃墟が見える。）貧困と不平等が深刻な社会問題であることを垣間見ることができたが、インドは世界最大の民主主義国であり、経済発展と共にスラムが消滅することを願いたい。

### 3. 日本企業もインド進出を

インド人の自動車保有台数は年 20%増加している。中間層の数はアメリカの総人口に匹敵する。アッパーミドル層以上（購買力平価で 7,522 米ドル以上、2007 年）は 9 千 7 百万人、14%（シンガポールとオーストラリアとタイの人口合計 9 千 2 百万人）、労働力人口は 2010～2020 年に 1 億 3 千 6 百万人増加、日本は 8 百万人減少する。経済発展の可能性が非常に高い国である。日本企業の中国への進出数は約 25,000 社、インドへは約 700 社と少ない。

「インド人は日本のものまねや、偽物を作ったりしない」「誇り高いというか、悪く言えば、見栄っ張り」「交通信号、交通規則も守られるようになった」とガイドさんが言っていたが、数学に強いだけでなく、だから独創性が求められる IT に強いのか。インドの父と慕われるガンジーのイメージで商取引は一見しやすいように思われたが、信頼関係を築くには最低でも 10 年以上かかるという。今は、インドにおける自動車シェアの約 50%を占めるスズキ自動車は軌道に至るまでに約 30 年を要した。インドで日本語

を学ぶ学生は日本人の長所を「約束を守る。時間を守る。言いわけをしない。積極的なイメージ」と述べていた。信頼関係を築くためには何をすればよいのか、突破口はあると思う。

#### 4. もっと深く知りたいインド

現在、当協会にはインド人技術者の奥様方が数人毎日見られるが、インドとの交流が少ないので、インドの学生との交換留学、ホームステイが盛んになるように支援していきたいと思う。また、インドの大都市は地下鉄が充実してきているので数年後は、一人旅も可能だと思った。散歩の途中でホテルへの道を迷ってしまい、オートリクシャー（幌付きの小型オート3輪車）に乗ったが、速くて快適で、メーター料金に沿って支払った。

最後に、堀村団長と私は年の功か、免疫力があったのか、ハードな日程の中、無事、研修を終えることができたが、若手数人が体調を少し崩した。私は日本ではカレーはあまり食べないが、体にしみ込んだようで、たいへんおいしかった。生野菜のサラダも食べた。カレー以外にうまいものはなかったが、またカレーを食べたい。また、堀村団長からは諸外国に関する貴重な話を日々伺うことができ、シンガポール事務所の方々は、愉しく視察できる気配りが素晴らしく、この視察の所期の目的を達成できたことに対し、ここに厚く感謝・御礼申し上げます。



ムンバイ空港に着陸寸前の機内から撮影。青いテントやトタン屋根の広大なスラム街が見える。最大地区で 2.5k m<sup>2</sup>の土地に 100 万人もの人々が住むという。



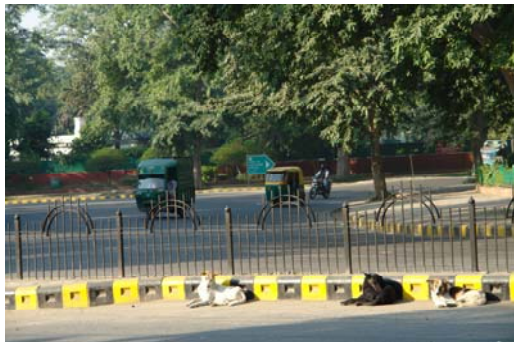
ムンバイの世界第 4 位の大富豪、52 歳が住む 27 階建て、高さ 174m (60 階相当)の邸宅。2010 年完成。1~6 階駐車場、7 階は車の修理工場、3 つのヘリポート、使用人 600 名。電気代は月 1400 万円、建築費 US\$10 億以上



未来を背負う若者たち。



バンガロール市内の路上の市場。野菜の種類は豊富



生い茂る街路樹とオートリクシャーと野犬たち



デリー空港の搭乗口付近で休憩している所

【文責：財団法人長崎県国際交流協会 浜永 孝雄】



# India: Performance and Prospects

Dharmakirti Joshi  
Chief Economist, CRISIL

December 1, 2010

# CRISIL's Businesses

## Ratings

- Corporate Sector
- Financial Sector
- Infrastructure Sector
- Micro-Finance Institutions
- Corporate Governance
- Mutual Funds

## Advisory Services

- Infrastructure Practice
  - International Gas Practice (Gas Strategies Group)
- Investment and Risk Advisory
- Consulting Solutions and Models for assessing
    - Credit Risk
    - Market Risk
    - Operational Risk
    - Investment Risk

## Research

### CRISIL Research (Domestic IP- based Research)

- Economy
- Industry
- Company
- Mutual Funds Research & Rankings
- Fixed Income
  - Research
  - Valuations
  - Indices
- Equity Research
- Customised Research

### IREVNA (outsourcing)

- Best Investment Research Outsourcing firm globally



## **Economy Prospects: Key Messages**

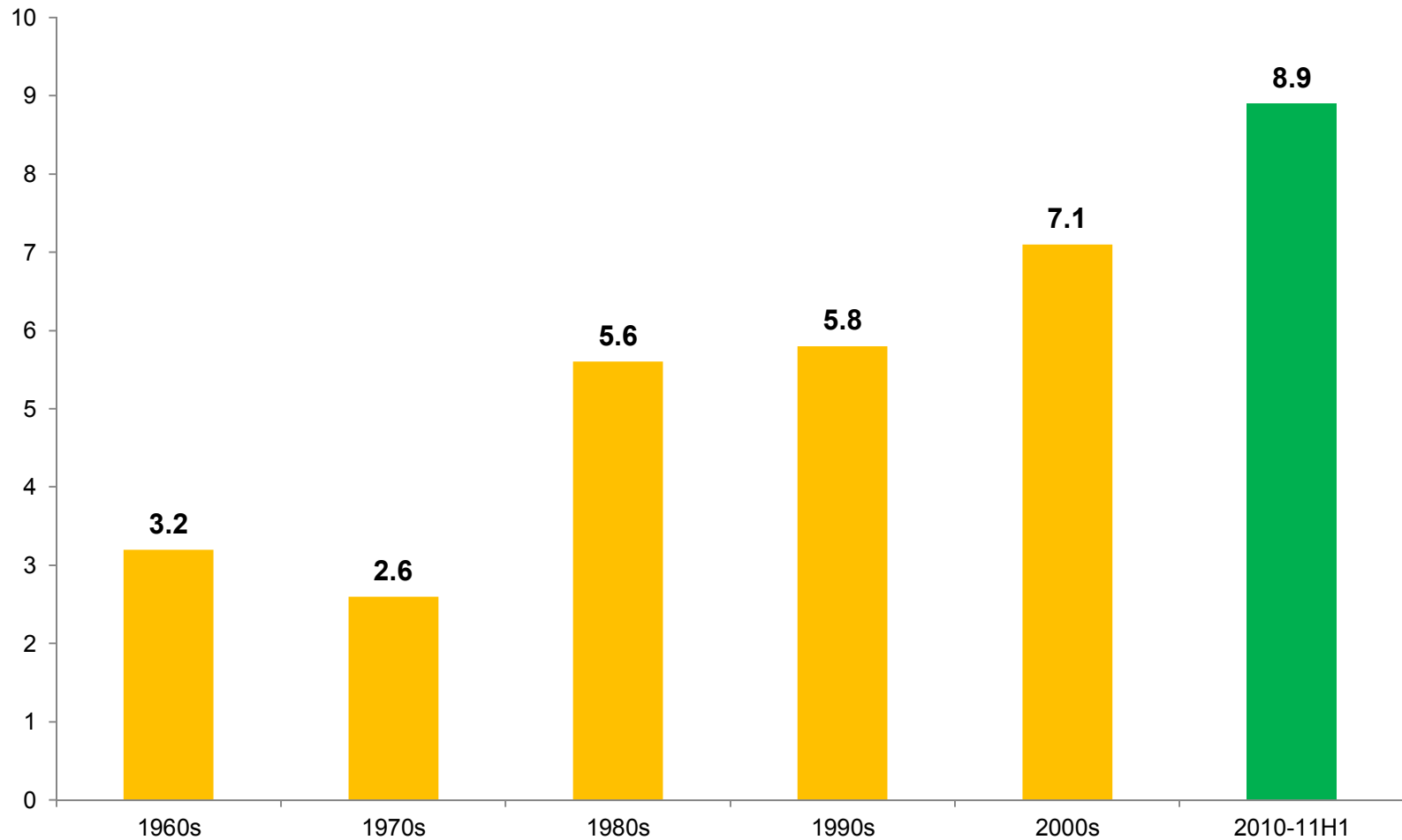
---

- **Post crisis growth opportunities have not fundamentally altered for India as they have for the advanced world**
- **Growth to climb to 8.2% in 2010-11 even as stimulus is withdrawn; 8-8.5 % growth in the next 5 years**
- **High Savings and Investment will support growth**
- **Rising working age population and incomes will propel discretionary spending and trigger demand for variety of goods and services**

# India has come a long way

---

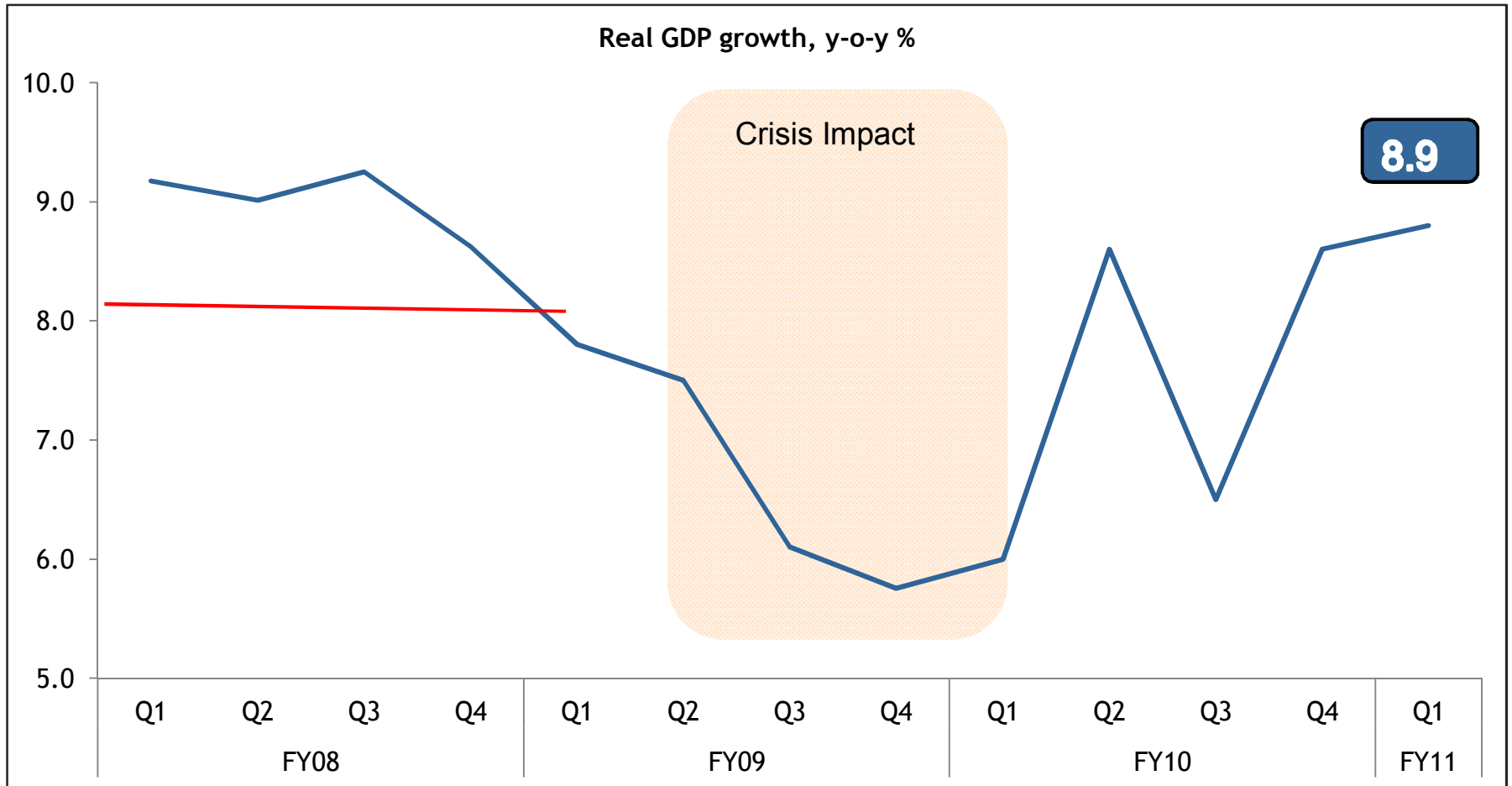
## GDP Growth



Source :CSO



# Economy Rebounds Strongly From Crisis



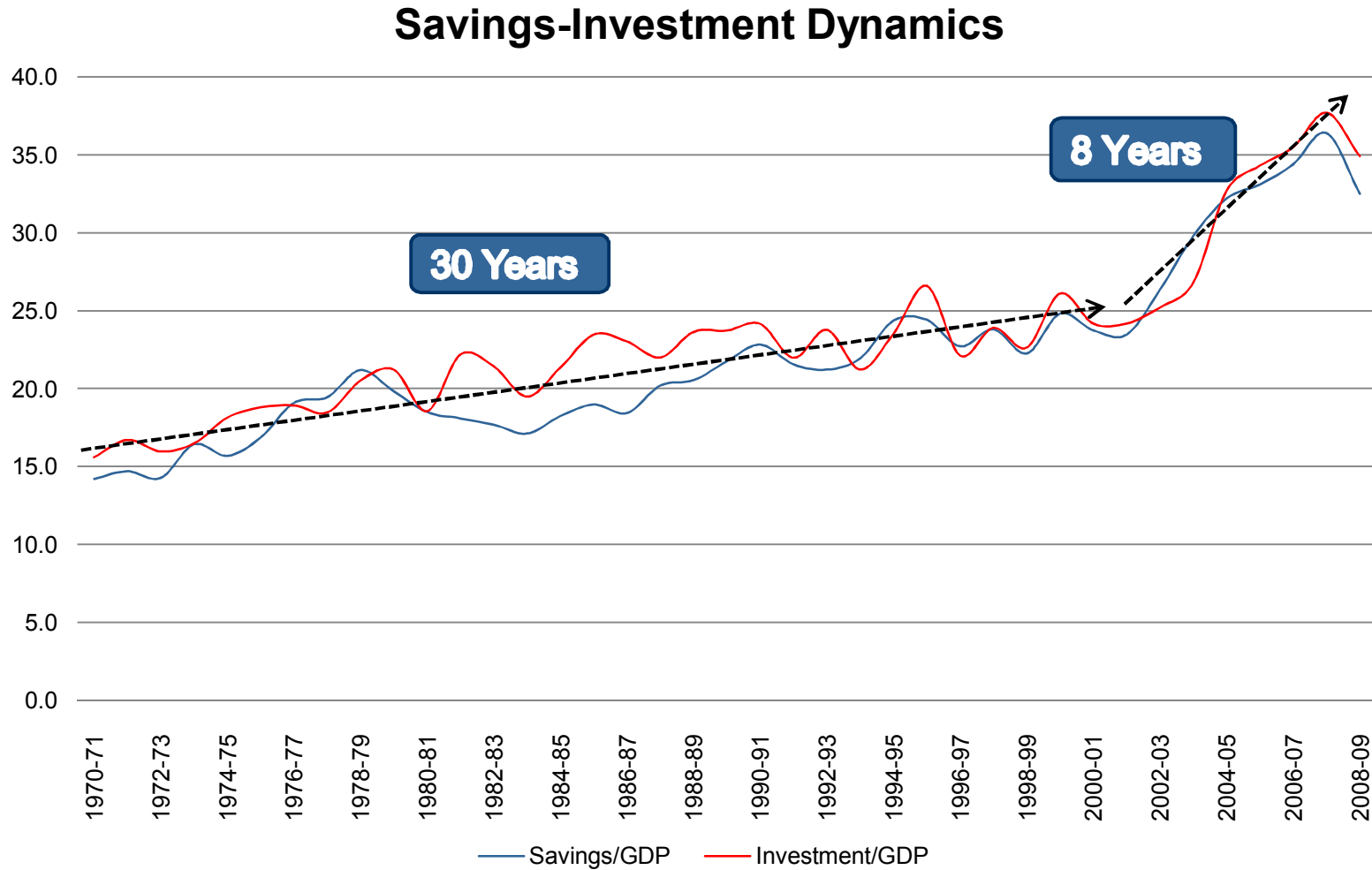
Source :CSO

## Medium/long-term drivers

---

- High savings and investment rate
- Age demographics and income dynamics
  - **Large and growing population in working age group**
    - India will add 136 million to the world incremental Working Age population between 2010 and 2020
  - **High growth in high income categories**
- Positive impact on savings
- Income and age demographic transition will create significant opportunities for consumption growth and workforce expansion
- Infrastructure thrust

# Remarkable Lift in Savings and Investment Rate....



## Population Demographics: India one of the youngest countries

---

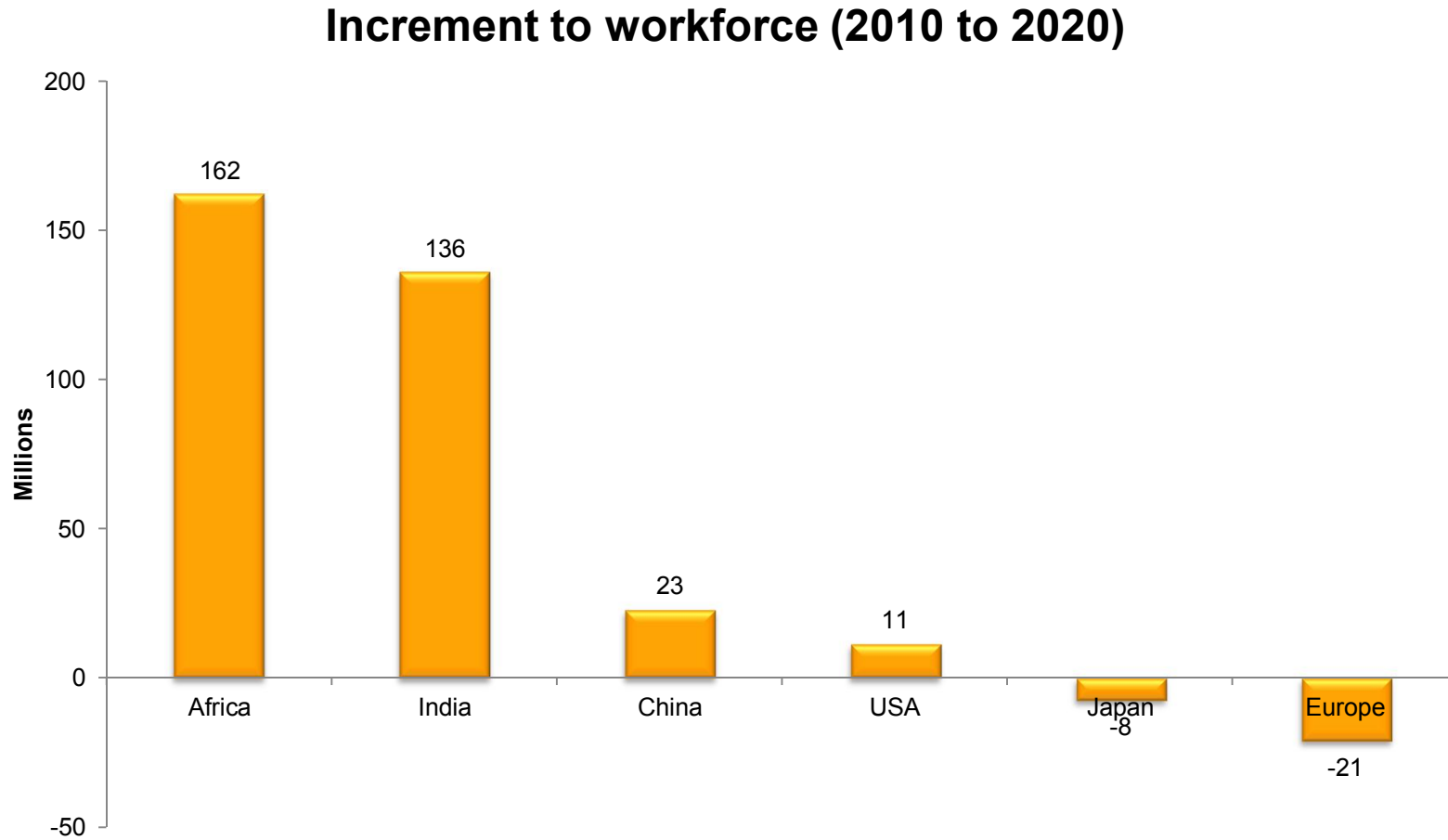
2010

<b>Countries</b>	<b>Share in world Population (%)</b>	<b>Population below 25 years (%)</b>
Africa	15.0	60.5
India	17.6	50.1
China	19.6	36.8
USA	4.6	34.3
Europe	10.6	28.1
Japan	1.8	23.1

Source: UN Population Tables, 2010

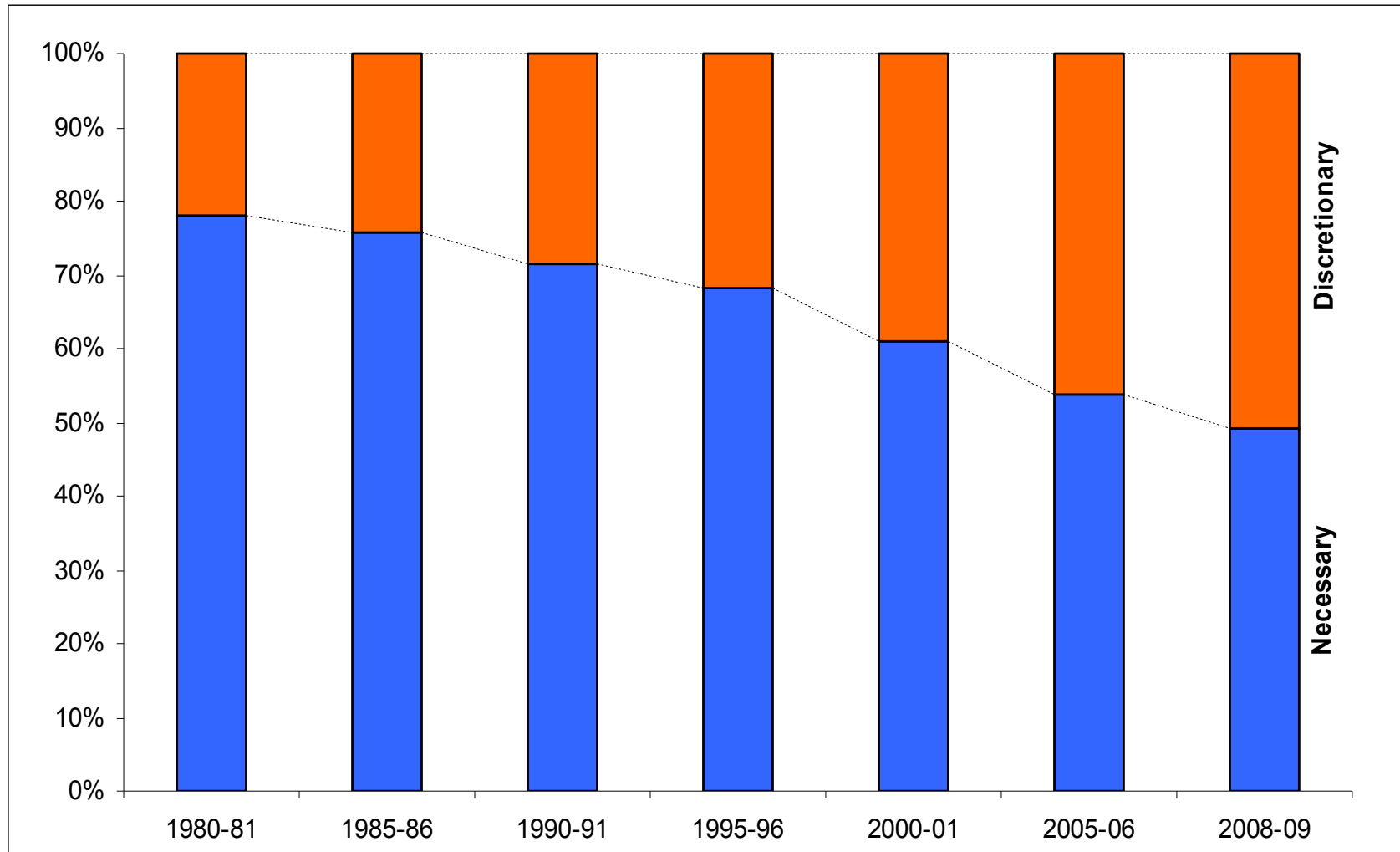
# India: A major contributor to global workforce in next decade

---

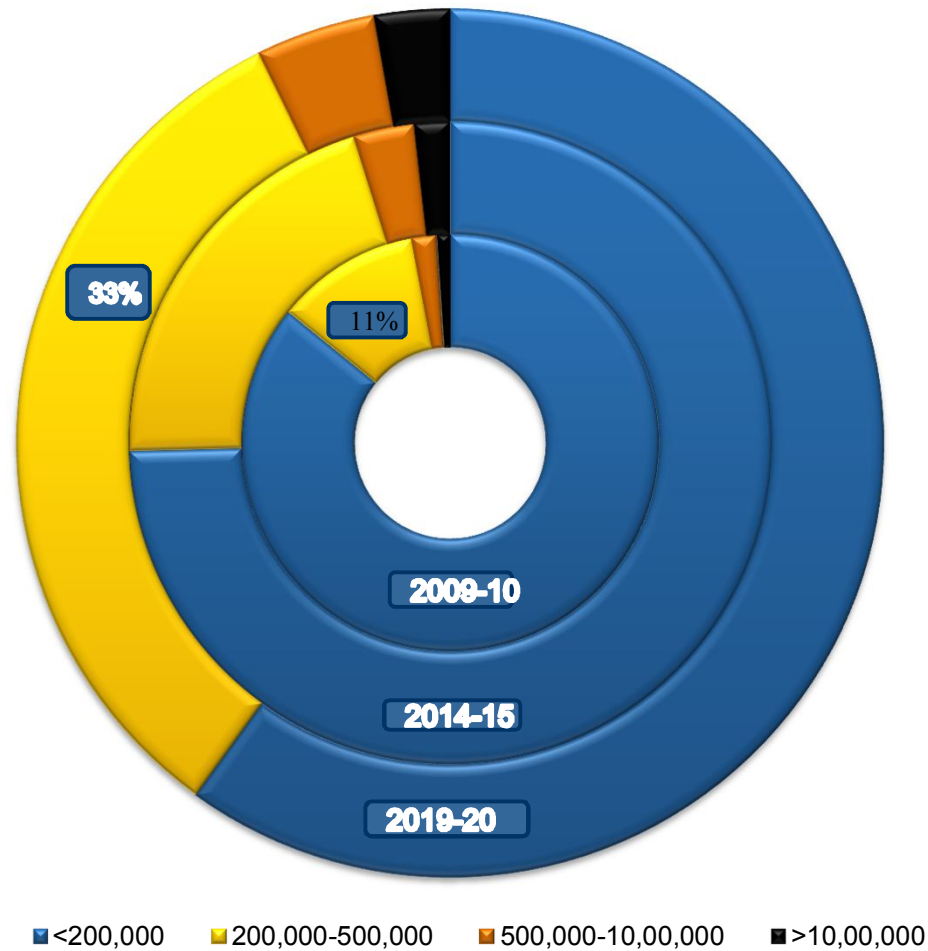


Source: UN Population tables, 2010

# Household Consumption: From Necessities to Discretionary



# Middle and High Income Categories to Expand at Fast Pace



Source: CRISIL Research and NCAER Data

# India – Many countries rolled into one

INDIA				WORLD		
Income class	Income USD PPP	Population		Country	Income USD PPP	Population Mn
		Mn	%			
Highest	46,217	8	0.7	Singapore	48,520	5
High	30,050	16	1	Australia	33,340	21
Upper Middle	7,522	73	6	Thailand	7,880	64
Lower Middle	3,046	286	25	Indonesia	3,580	226
Lowest	1,081	748	67	Sub-Saharan Africa	1,870	800

Note: Data is for 2007

Source: World Development Indicators and CRISIL Research



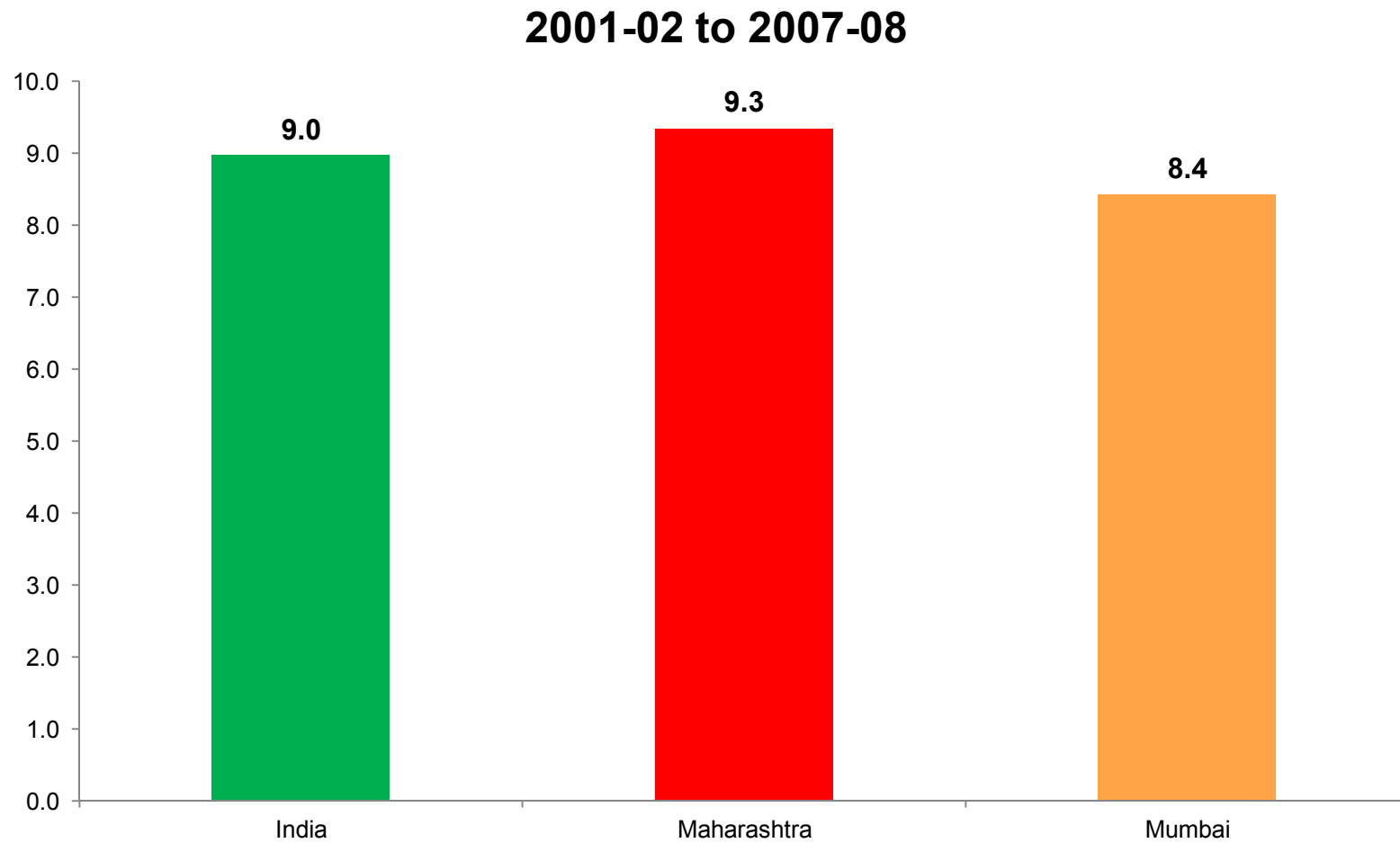
# Risks

---

- **Near-term Risks**
  - Inflation/rising interest rates
  - Global weakness/fear of double dip
- **Medium-term Risks**
  - **Infrastructure bottlenecks**
  - **Skills mismatch**
  - **Rising disparities**
  - **Persistent failure of agricultural reforms**

# India, Maharashtra and Mumbai

---



Source: CSO and Government of Maharashtra

## **Mumbai Metropolitan Region**

---

- **Vibrant commercial and cultural centre**
- **Pre-dominantly a service sector economy (65% of GDP)**
- **Annual population growth of around 3% in the past 2 decades**
- **High literacy rate (85%)**
- **20% of Maharashtra's population (14 million)**
- **High migration levels (40 % of increase in population)**
- **Pressure on civic infrastructure**
- **38% population lives in slums**

### ***Drivers***

**Construction, transportation, banking and finance and tourism**



CRISIL

*A Standard & Poor's Company*

[www.crisil.com](http://www.crisil.com)

[www.standardandpoors.com](http://www.standardandpoors.com)

## カルナータカ (KA) 州概要

平成23年2月4日

在バンガロール出張駐在官事務所

1. 人口 (2001年国勢調査) : 5,273万人
2. 州都 : バンガロール市の人口は約700~800万人と推定(2001年調査では約570万人)
3. 面積 : 19.2万平方km (日本37.8万平方kmの約2分の1)
4. 州知事 : ハンス・ラージ・バァールドウワジ(Hans Raj Bhardwaj)
5. 州首相 : B. S. イェデュラツパ(2008年5月30日就任、BJP所属)  
州議会(議員定数224)選挙は、2008年5月に実施されたところ、BJPが110、Congress党が80、ジャナタ・ダル党(S)が28議席を獲得。この結果、BJPが無所属議員6名を取り込み、5月30日州政権を発足させた。
6. 州議会 (下院議員定数 225)  
主要政党の勢力 : インド人民党 (BJP) 117、Congress党74、ジャナタ・ダル (S) 27、無所属6、 (この他上院が存在し、その定数は75である。)
7. 連邦議会 (州選出議員定数 : 上院 12、下院 28)  
主要政党別議席内訳 :
  - (1) 上院 Congress党 : 4、BJP : 4、JD(S) : 2、無所属 : 1
  - (2) 下院 BJP : 19、Congress党 : 6、JD(S) : 3
8. 主要言語 : カンナダ語
9. 州経済成長率 : 5.5%(2008年度)、(全国平均6.7%)
10. カルナータカ州の一人当たりのGDPは30,151ルピー(2008年度約660ドル)で国内第3位、バンガロールは、84,380ルピー(同1,845ドル)。
11. 識字率 (2001年) : 61.11%
12. 在留邦人数(在留届けベース)は、614名(バンガロール市在住は603名)、日系企業数は、155社(支社を含む。どちらも2011年2月4日)バンガロールの邦人数はデリーに次いで多い。
13. 概観
  - (1) 地理・気候 :  
デカン高原の南西部に位置し、降水量は少ない。首都バンガロールは海拔920Mに位置する高原都市。気温はそれほど高くなく、湿度は低いため、1年を通して非常に過ごし易い。
  - (2) 歴史 :  
1799年、マイソール王国(イスラム教国)がイギリスとの戦いに破れ、滅亡し、イギリスの庇護の下、ヒンドゥー藩王国が成立、印独立の1947年まで存続した。同王国は独立の際、5つの州に分割されたが、1956年に至り、カルナータカ州に統合された。
  - (3) 政治 :
    - (イ) インド独立後、Congress党による支配が続いていたが、1980年代に、ジャナタ・ダル (JD) 党が台頭し、Congress党から政権を奪取。しかし、1990年代になって、JD党は統一派(U)と世俗派(S)に分裂し、弱体化した。
    - (ロ) 2008年5月に州議会選挙が実施され、BJPが第1党の座を確保し、無所属議員6名の支持を得て過半数を確保し州政権を5月30日に樹立。(南インドで初めてのBJP政権が発足)  
州民はインフラ整備の遅れは、不安定な州連立政府に起因していたとして、BJPによる単独政権が出来たことにより同州のインフラ整備が促進されると期待していたが、州首相に指導力及び開発プ

ン等が欠けることもあり、電力、水及び道路等のインフラ整備が遅れている。また州民の間では政治家及び官僚の汚職・腐敗の蔓延に対する不満が大きい。電力不足もさることながら水不足が更に深刻になることが懸念されている。

#### (4) 経済・産業：

(イ) 州内総生産に占める産業の割合は、第1次産業17%、第2次産業27%、第3次産業56% (2008年度) であり、近年IT産業を含む第3次産業の割合が増加している。

(ロ) バンガロールは、これまで航空機産業等の防衛・ハイテク産業、機械、電機などの産業を中心に発展してきたが、91年以降、印政府の経済自由化措置等の導入により、IT関連企業が世界中から集中するようになり、印のシリコンバレーと呼ばれている。KA州のソフトウェア輸出額は全国第一位であり、2008年度は全国の輸出額の34%を占める7500億ルピーに達した。また、2006年度は173社のIT企業がKA州に進出し、IT企業数は1973社となった。(1ルピー≒2円)

(ハ) バンガロールには、トヨタ、ボルボ等の自動車関連企業も集まり、多くの自動車部品企業も集積している。近年、バイオ産業も成長しており、印最大のバイオ企業バイオコムもバンガロールに本社を置いている。これらのバイオ企業は、外国企業からの研究委託(臨床試験等)だけでなく、ワクチン等バイオ医薬面においても、成長を見せている。

(ニ) KA州のIT産業は成長を続けているものの、既存のインフラ(電力、水、道路網)が充分でないことから、製造業等の企業進出にとって足かせとなっている。また、バンガロール近郊の工場用地も高騰しており近郊に限れば土地の値段は手が出ないほどの水準に達している。

(ホ) 農業分野では、コーヒーの産地および生花栽培が盛んな地域として有名。絹の生産は国内生産量の約70%を占めている(JICAが絹の品種改良の目的で日本より専門家を派遣した)。

(ヘ) 日系企業は、自動車関連企業、IT関連企業、建設機械関連企業等155社が進出。恵まれた気候、伝統的に精密工業の町である、南印の中心に位置する等の事情からとりあえずの印進出の足がかりの営業拠点をバンガロールに築く日系企業もでてきている。在留邦人の数(603名)は、デリーに次ぐ規模(どちらも2011年2月現在)。バンガロールでは日本人補習授業校が運営されている。

(ト) 2010年6月3日バンガロール市でカルナータカ州グローバル投資会合が開催され、ミッタル・アルセロール・ミッタル会長等経済界要人が参加した。2日間にわたる会合で計4兆ルピーの投資にのぼる353プロジェクト(一貫製鉄所建設等)にかかる合意書が投資企業と州政府との間で交換された。これらプロジェクトが予定どおり実施されることが期待されている一方、実施された場合の産業用水等の確保が極めて大きな問題点となり得ると指摘されている。

#### (5) 治安

バンガロール市は、印国内の主要都市の中では、犯罪が比較的頻発し治安はそれほど良い方ではない。(殺人件数は全国第2位、強盗件数は全国第1位)また、州北部はテロリストのターゲットとなってきたムンバイ市およびパキスタンと同じ言語を話す人々がおり回教徒も多いハイデラバード市に挟まれていることからテロリスト及びその支援者が州内に潜伏していることが多い。2005年12月、バンガロール市内の著名な大学(IISc)において過激派による銃の乱射事件(1名死亡)が起きている。2008年7月25日には同市内で複数の爆弾事件が起き、1名が死亡し11名が負傷。また2010年4月17日には同市内のクリケット競技場で爆弾事件が発生し、17人が負傷している。

(了)